

平成29年度 研究推進計画

熊野町立熊野第四小学校

1 研究主題

主体的に学び、確かな学力を身に付けた児童の育成

～情報活用力を伸ばす課題発見・解決学習の創造～

2 研究主題にかかわって

「教育課程企画特別部会における論点整理（平成27年8月）」において、未来にむけて児童に育成すべき資質・能力として、以下の三要素をあげている。

①「何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）」

②「知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」

③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）」

つまり、各教科に関する個別の知識・技能を着実に身に着けること、既存の知識技能を活用して問題解決をしていくこと。また、これらの資質・能力をより主体的に、協働的に働かせていくこと。これらが、これから求められている姿であるといえる。

これらを踏まえ、昨年度より、「主体的に学び、確かな学力を身に付けた児童の育成」と題し、自ら課題を見つけ、主体的に学ぶ児童の育成に重点を置き、課題発見・解決型の学習に取り組んできた。下記は、全国学力・学習状況調査及び広島県「基礎・基本」定着状況調査の結果である。

【全国学力・学習状況調査】

平成27年度

平成28年度

	本校	全国	差	本校	全国	差
国語A	69.2	70.0	0.8	82.9	72.9	10.0
国語B	69.5	65.4	0.1	65.9	57.8	8.8
算数A	81.3	75.2	6.1	87.0	77.7	9.3
算数B	43.2	45.0	-2.2	54.7	47.2	7.5

【「基礎・基本」定着状況調査】

平成27年度

平成28年度

	本校	広島県	差	本校	広島県	差
国語I	85.3	78.3	7.0	77.5	68.0	9.5
国語II	59.5	58.3	1.2	44.1	36.3	7.8
算数I	89.3	78.5	10.8	81.6	74.9	6.7
算数II	55.9	49.4	6.5	60.3	52.0	8.3

一昨年度に比べ、より学習内容の定着が見られ、一定の成果があったといえる。

しかし、広島県「基礎・基本」定着状況調査の、『折れ線グラフと棒グラフの関連付け』に関する問題においては、それぞれ県平均・全国平均を上回っているものの本校通過率48.5、全国学力学習状況調査の、『グラフを根拠に理由を述べる』問題において、本校は27.4であったことからグラフや表から情報を読み取ることに課題があるといえるだろう。

さらに、教育課程企画特別部会における論点整理（平成27年8月）でも述べられているように、「社会生活などのさまざまな場面において必要なデータを収集して分析し、その傾向を踏まえて課題を解決したり意思決定をしたりすること」は、これからの子どもたちに求められていることである。

そこで、本年度は、昨年度の研究を継続しつつ、さらに資料の活用とデータ分析を活用した課題解決学習に焦点を当て、主体的に学び、確かな学力を身に付けた児童の育成をめざし、研究を行っていく。

3. 研究について

(1) 教科

算数科・総合的な学習

(2) 内容

①授業形態の工夫

- ・ジグソー法的な協働学習
- ・グループトーク、ペアトーク学習

高学年	ジグソー法	自分たちの考えをグループで伝え合った後、新しい価値・発見を見出す。
中学年	ジグソー法	自分たちの考えや意見を他グループに根拠を示し、分かりやすく伝える。
低学年	ペアトーク グループトーク	クラスの友達とペアやグループになって、自分の思いや考えを表現する。

②育てたい資質・能力の共有と見取り

No	本校で育てたい 資質・能力	低学年	中学年	高学年(ゴール)
⑦	未来を担う志	未来の担い手として一人ひとりが主役となって活動することができる。		
⑥	人としての 思いやり	友達の考えをわかろうとする。	友達の意見や立場を大切にしようとする。	相手の気持ちを考え、異なる意見や立場を大切にすることができる。
⑤	自己理解 自らへの自信	自分のよさや足りないところに気付くことができる。	自分のよさや足りないところに気付き、高めていこうとすることができる。	自分のよさや足りないところに気付き、高めていくための目標をもち、取り組むことができる。
④	主体性	課題に対して、自分にできることを意欲的に行動することができる。	自ら進んで行動することができる。	集団の中での自分の役割を自覚して行動することができる。
③	実行力	学んだことを生活に生かそうとする。	学んだことを生かすことができる。	学んだことをこれからの生活に活用することができる。
②	課題発見・ 解決力	「!」「?」を感じ、課題解決のための自分なりの方法を見つけ解決する。	自ら課題を見つけ、課題解決のための様々な方法を知り、解決する。	自ら課題を見つけ課題解決のためのよりよい方法を見つけ解決する。
①	知識・情報 ・技能	各教科等に関する個別の知識や技能など		

③基礎学力の定着

- ・家庭学習
- ・かがやきタイム

④統計教育について

- ・算数科における統計教育の分析と系統性の確認
- ・総合的な学習におけるデータの活用について

⑤課題発見・解決学習の単元開発（投げ入れ単元含む）

4 検証の指標

育てたい資質・能力における検証の指標

- ①知識・情報・技能→・学期末テスト，標準学力調査（活用問題を除く），全国学力調査（A問題），基礎基本定着状況調査（タイプI）において，通過率70%以上の児童を8割以上（算数科）
- ②課題発見・解決力→・標準学力調査（活用問題）において，対全国比1.05以上もしくは，対前年度比1.05以上の児童の割合70%以上。（算数科）
・ポートフォリオによる児童の記述の変容。（総合的な学習）
- ③実行力→・データの読み取り，活用における児童の記述・発言（総合的な学習）
- ④主体性→・授業における振り返りの記述及び行動，発言（算数科，総合的な学習）
※あゆみにおける「関心・意欲・態度」との関連

★児童質問紙（広島県「基礎・基本」定着状況調査と同一のもの）

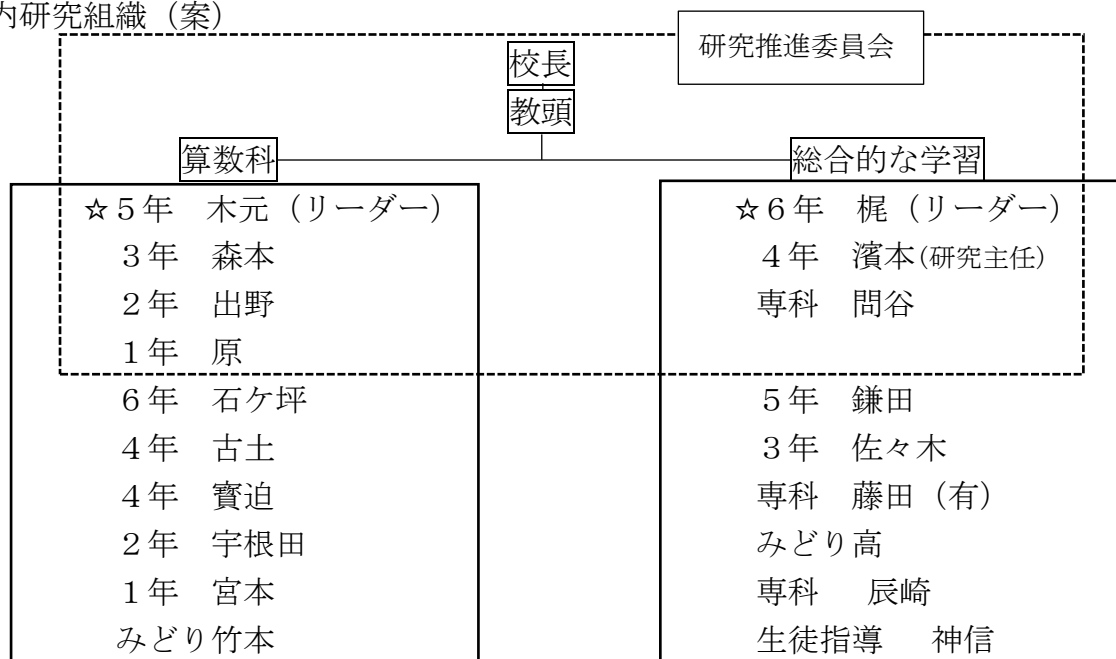
5 研究計画

【研究会 平成29年11月22日（水）】

4	5	水	研究推進委員会（本年度の研究について）
4			職員研修（本年度の研究について意識統一）
4			教科部会（算数…系統性・授業スタイルの確認，総合的な学習…昨年度の実践についての確認）
4			研究推進委員会（教科の方向性）
4			5月12日算数科指導案検討
5	12	金	算数科授業研究【今崎先生】 5年木元先生（ジグソー法）
5			研究推進委員会（5月12日で見えてきた課題について）
5			5月26日指導案検討
5	26	金	算数科授業研究【今崎先生】 2年 宇根田先生
6			研究推進委員会（5月26日で見えてきた課題について）
6	23	金	総合的な学習授業研究【今崎先生】 3年 佐々木先生
7			研究推進委員会（6月23日で見えてきた課題について，1学期のまとめ）
7			職員研修（1学期のまとめと2学期からの方向性）
7	28	金	理論研修（統計教育について）【今崎先生】
8			低・中・高学年部会（指導案検討）
8			教科部会（指導案検討）

9	15	金	算数科研究【今崎先生】	1年 宮本先生
9			研究推進委員会（9月15日で見えてきた課題について）	
9			算数科授業研究	4年 古土先生
10	5	木	算数科授業研究【今崎先生】	4年 寶迫（濱本）先生 兼学びの変革パイロット事業 授業研究
10			研究推進委員会（研究会にむけて）	
10			全体研修（研究会に向けて）	
10			教科部会（指導案検討・授業準備）	
11	22	水	熊野第四小公開研究会 ＝公開授業＝ 【算数科】 【総合的な学習】 1年 原先生 4年 濱本 2年 出野先生 5年 鎌田先生 3年 森本先生 6年 梶先生 6年 石ヶ坪先生	
12			研究推進委員会（研究会まとめについて）	
12			教科部会（本年度のまとめ）	
12			研究推進委員会（本年度のまとめについて）	
1			教科部会（標準学力調査分析と来年度にむけて）	
2			研究推進委員会（本年度のまとめと来年度の方向性）	

6 校内研究組織（案）



7 提出物—課題発見・解決学習の単元開発

○算数科…学年1本（計6本）

○総合的な学習…学年1本（計4本）